

ヤマボウシ

先日、テレビのローカルニュースで、関市にある県立百年公園のヤマボウシが満開で、美しい花を咲かせている映像が流れました。私は東高に転勤する2年前には、その百年公園の敷地内に併設されている岐阜県博物館に勤めていました。その映像を見たとき、懐かしさを感じるとともに、その白い印象的な花の美しさを思い出しました。

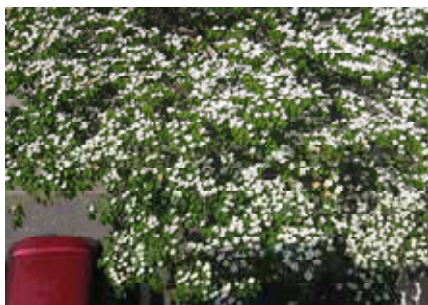


ところが、燈台もと暗しの典型で、実は本校にもヤマボウシがありました。それもごく身近に、同じ白いインパクトのある花が咲いていました。それは南舎東の北側、ちょうど東下足置場の建屋と南舎に挟まれた狭い空間の中に、目立たず1本だけひっそりと植えられていました。一階にある校長室の前の廊下からは、その白い花はよく見えません。でも、南舎三階の図書館前の廊下から見下ろす景色は、まさに絶景と言えます。眼下に白いシートを広げたような、何百もの白い花が咲き誇っています。

ヤマボウシは「ハナミズキ」によく似ていますが、ハナミズキの美しい季節よりも半月ほど遅れて開花する木で、花や実の形がはっきりと異なっています。また、ハナミズキはアメリカヤマボウシとも呼ばれています。両者とも同じミズキ科の植物ですから、よく似ていても不思議ではありません。ちなみに四枚の白い花弁と見えるのは総苞で、その中心に本物の小さな花が多数あるようです。

前回のこのコーナーに記したヒトツバタゴ(ナンジャモンジャ)も同じですが、私はその名前にインパクトのあるおもしろい木が好きです。ヤマボウシの語源は山法師であり、特徴的な白い花が白頭巾をかぶった山法師を連想させることから名付けられたと、ある植物図鑑には書かれていました。比叡山等の山法師(荒法師?)を勝手にイメージしてしまい、昔の日本人の言葉の感性やおしゃれ感覚、そして洒落っ気を感じました。図鑑によれば、さらに秋にはイチゴのような赤いぶつぶつの果実ができ、その実は熟すと甘くて食べられるとも書かれていました。その実の様子から、ヤマボウシの別名は山桑とも言われるとか。秋がとても楽しみになりました。

敷地が狭いと言われる本校にも、まだまだ様々な木が植えてありそうです。木々がその特徴を力一杯発信してくれる時を、私は期待を込めて待っています。そうでないと、日常の諸事に押し流されている鈍感な私には、残念ながらそれらの自然の魅力にきっと気付かないと思います。



でも、本校の生徒諸君に対しては敏感でありたいと、常に心がけていますのでご安心ください。部活動で、勉強で、そして学校生活全般で、主役である生徒諸君が輝ける素晴らしい時を創り出せるように、全職員で頑張っています。

6月9日の朝

大垣東高等学校 浅野 裕 司

